羽島崎神社春祭に伴う芸能（田打，船持祝）

【所　在　地】いちき串木野市羽島 5944（羽島崎神社太郎太郎祭保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 37 年 10 月 24 日

羽島崎神社の春祭を「太郎太郎 祭」といい，旧暦２月４日に行われていたが，現在はその前後の日曜日に行われている。農村・漁村がひとつになって豊作と豊漁を祈念する行事である。

田打行事はテチヨ（父）と太郎と牛が出てきて見物人を笑わせながら田を起こす動作をしたあと，農家の５歳になった男の子が保護者につきそわれ松葉を苗にみたてて田植の動作をする。

一方，船持ち行事は，漁家の５歳の男の子が保護者につきそわれ神前で神宮から船の模型をいただき，これをささげて船おろしをし，櫓声をかけながら境内をひとまわりする。その後, 浜の青壮年たちが紋付羽織で着物の裾をまきあげ, ほおかむりして２列にならび, 笹の葉のついた青竹の両方につかまり船をこぎながら「やーらァめでたァいなーごゆあー, サめでたァイのの……」と船持の祝歌をうたって境内をひとまわりして終る。

この芸能は，田打ちと呼ぶ農事予祝的な祭事芸能と船持ちという漁業予祝的な祭事芸能が行われるのに特色がある。特に後者は全国的にも珍しいものとされている。